

目 次	
1. 第8回九州大学大型計算機センター計算機科学研究集会講演募集について…	1
2. 平成2年度(後期)ライブラリプログラム開発計画募集について……………	2
3. カラーXウィンドウ端末の設置について(UTS)……………	3
4. 利用者提供通信ソフトのオンラインコピーサービスについて……………	4
5. 日本語T e Xのプレビューア, 出力コマンドの公開について(UTS) ……	8

1. 第8回九州大学大型計算機センター計算機科学研究集会講演募集について

本センターでは、例年どおり、標記研究集会を下記のように開催します。この研究集会の目的は、センター利用者にとって有益な研究成果あるいは計算機科学への問題提起を含んだ研究の発表と討論の場を提供し、センター利用者と計算機科学の研究者との交流の接点をつくることにより、計算機利用技術の向上を図ろうとするものです。センター利用者の方々の積極的な研究発表をお願い致します。

- | | |
|------|---|
| 日 時 | 平成2年11月26日(月)10:00~17:00 |
| 場 所 | 九州大学大型計算機センター多目的講習室(3階) |
| 応募方法 | 講演内容をA4版用紙1枚にまとめ、9月20日(木)までに提出してください。このとき、発表者の氏名、所属、電話番号を別紙に記したものを添えてください。 |
| 審 査 | 応募論文は、編集委員会において、本研究集会の趣旨に基づいて審査します。審査結果は、9月末日までに連絡いたします。 |
| 講演方法 | 会場にはOHPを準備します。(希望によりスライドも可)なお、当日は資料をご用意ください。 |
| 講演時間 | 質疑応答を含め30分を予定していますが、講演件数によって多少調整することがあります。 |
| 論文提出 | 発表いただいた研究は、九州大学大型計算機センター計算機科学研究報告として、平成3年3月20日(水)に発行する予定です。このための原稿(カメラ・レディ・フォーム10枚程度)を平成3年1月31日(木)までに提出していただきます。要領は発表決定後にお知らせします。 |
| 申込み先 | 〒812福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大型計算機センター 古川 哲也
電話092-641-1101(内線2510) |

2. 平成2年度（後期）ライブラリプログラム開発計画募集について

ライブラリプログラム開発計画募集要領（後述）に基づき、標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 平成2年8月24日（金）
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、ライブラリ室（内線 2508）まで提出する。
（申請書および募集要領は、ライブラリ室に用意してありますのでお問合せ下さい。）
4. 対象課題 a) 広く各分野で使われる汎用性のあるプログラムの開発。
 b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発されたプログラムは、なるべく早い時期にセンターのライブラリプログラムとして登録および公開し、多くのユーザの方に利用して頂く予定です。

これら開発に関する事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
- ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題。
- iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。

2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。

- ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
- iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。
- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

6. その他

- i) 申請書に不明な個所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。
- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間（分）	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額（万円）	10	15	20	25	30	35	40	45	50

（ライブラリ室 内線2508）

3. カラーXウィンドウ端末の設置について（UTS）

7月15日（月）から、センター内端末室に標記端末を2台設置しています。これは日本電算機株式会社製カラーXウィンドウターミナル（X s t a t i o n 17）で、高精細カラーディスプレイ（17インチ、1280×1024ドット）の使用ができます。使用にあたって、端末からログイン名とパスワードを入力すると、ウィンドウマネージャ t w m と k t e r m が起動されます。なお、各クライアントを起動する場合、文字フォントに内蔵フォントを使用すると高速に表示できます。

（例） % k t e r m - f n r o m - a 16 - f k r o m - k 16 … 16×16ドットの内蔵フォントを指定
 % k t e r m - f n r o m - a 18 - f k r o m - k 18 … 18×18 “
 % k t e r m - f n r o m - a 24 - f k r o m - k 24 … 24×24 “

（システム運用掛 内線2517）

4. 利用者提供通信ソフトのオンラインコピーサービスについて

本センターでは、利用者（開発者）からフロッピーディスクで提供された通信ソフトのコピーサービスを、2階オープン室に設置しているPC9801で行っていますが、オンラインでも同様のサービスを開始します。オンラインでの通信ソフトの入手方法はPDSコマンドで参照できます。以下はPDSコマンドの出力です。

READY

PDS

九州大学大型計算機センターのオンラインコピーサービスで入手できるソフトウェア（バイナリー）には以下のものがあります（1990年7月6日現在）。

機能の詳細は各参考文献を参照してください。

・高速多機能TSS PFD端末エミュレータ

ファイル名 : TSSPFD.A

開発者 : 武政 尹士 氏, 渡辺 健次 氏（佐賀大学）

適応機種 : PC9801シリーズ（MSDOS）

対応コード : シフトJIS, 新JIS, 旧JIS, JOIS

対応エディタ : MSP（日本語PFD）, UTS（jvi）

図形表示 : テクトロ4014

ファイル転送 : MSP（EDIT, LISTコマンドを利用したテキストファイル転送）

UTS（jex, catコマンドを利用したテキストファイル転送）

同期方式 : 同期／非同期

参考文献 : 九大センター広報Vol. 22, No. 3, 1989

・PC9801用端末プログラムTurbo-Eterm

ファイル名 : TETERMA

開発者 : 平良 豊 氏（佐賀大学）

適応機種 : PC9801シリーズ（MSDOS）

対応コード : 新JIS, 旧JIS, JOIS

対応エディタ : MSP（日本語PFD）

図形表示 : テクトロ4014

ファイル転送 : MSP（EDIT, LISTコマンドを利用したテキストファイル転送）

UTS（jex, catコマンドを利用したテキストファイル転送）

同期方式 : 同期／非同期

参考文献 : 九大センター広報Vol. 21, No. 1, 1988

・PC98用端末エミュレータTSS.COM

ファイル名 : TSSCOM.A

開発者 : 修行 稔 氏（長崎大学）

適応機種 : PC9801シリーズ（MSDOS）

対応コード : 新JIS, JOIS, NECJIS

対応エディタ : MSP（日本語PFD）, UTS（jvi）

図形表示 : テクトロ4014

ファイル転送: MSP (EDIT, LISTコマンドを利用したテキストファイル転送)
MSP (TRANSFERコマンドを利用したテキストファイル転送)
UTS (jex, catコマンドを利用したテキストファイル転送)
UTS (XMODEMプロトコルを利用したバイナリーファイル転送)

同期方式 : 非同期

参考文献 : 九大センター広報Vol. 23, No. 3, 1990

・ K E R M I T - M S

ファイル名 : K E R M I T A

開発者 : 藤井 啓文 氏 (高エネルギー物理学研究所)

適応機種 : P C 9 8 0 1 シリーズ (M S D O S)

対応コード : シフトJIS, 新JIS, 旧JIS, EUC

対応エディタ: UTS (jvi)

図形表示 : テクトロ4014

ファイル転送: MSP・UTS (Kermitプロトコルを利用したテキストファイル転送,
バイナリーファイル転送)

同期方式 : 非同期

・ P C 9 8 0 1 用 V T 1 0 0 ターミナル・エミュレータ

ファイル名 : V T 1 0 0 A

開発者 : 萩野 達也 氏 (京都大学大型計算機センター)

適応機種 : P C 9 8 0 1 シリーズ (M S D O S)

対応コード : シフトJIS, 新JIS, 旧JIS

対応エディタ: UTS (jvi)

ファイル転送: MSP・UTS (Kermitプロトコルを利用したテキストファイル転送,
バイナリーファイル転送)

同期方式 : 同期/非同期

・ P C 9 8 0 1 用 有 手 順 日 本 語 端 末 (F 6 6 5 0) エミュレータ

ファイル名 : H 6 6 5 0 A

開発者 : 平良 豊 氏 (佐賀大学)

適応機種 : P C 9 8 0 1 シリーズ (M S D O S)

対応コード : EBCDIC, JEF

対応エディタ: MSP (全て)

ファイル転送: MSP (FEXPORTコマンド, FIMPORTコマンドを利用したテキストファイル転送, バイナリーファイル転送)

参考文献 : 九大センター広報Vol. 21, No. 5, 1988

同期方式 : 同期

*HDL Cボードが必要

・ N K F - ネットワーク用漢字コード変換フィルタ

ファイル名 : N K F A

開発者 : 市川 至 氏
適応機種 : PC9801シリーズ (MSDOS), FMRシリーズ (MSDOS)
機能 : シフトJIS, JIS, EUCのコード変換

1. ソフトウェア入手方法

ソフトウェアの入手方法には、MSPシステムから入手する方法と、UTSシステムから入手する方法があります。

1. 1 MSPシステムから入手する方法

MSPシステムから入手する方法には、FIMPORTコマンドを使う方法とKERMITコマンドを使う方法があります。FIMPORTコマンドは本センター2階のFMR-60やHDL C手順接続のF6680エミュレータで利用できます。KERMITコマンドを使う場合はパソコン側にKERMITプロトコルを搭載した通信ソフトが必要です ('LIB.PDS' にメムバとして置いてあります)。

1. 1. 1 FIMPORTコマンドによる方法

READY

FIMPORT 'LIB.PDS(ファイル名)'

バイナリー形式を選択

受信ファイル名にファイル名.EXEを指定する。

1. 1. 2 KERMITコマンドによる方法

READY

KERMIT

KERMIT-MSP Version 2.00

KERMIT-MSP> SET File Binary

KERMIT-MSP> SEND 'LIB.PDS(ファイル名)'

Waiting 10 seconds before sending.

画面を切り換える

Receive ファイル名.EXE

画面を切り換える

リターンキー

KERMIT-MSP> Q

READY

1. 2 UTSシステムから入手する方法

UTSシステムから入手する方法には、FTP, XMODEM, KERMITを利用する方法があります。FTPは本センター2階のFMR-60やLAN接続のパソコンで利用できます。XMODEMやKERMITを使う場合はパソコン側に各々のプロトコルを搭載した通信ソフトが必要です (/usr/local/pdsディレクトリの下に置いてあります)。

1. 2. 1 FTPによる方法

FMR-60のメニュー画面のUTS(LAN)を選択

ファイル転送(FTP)を選択

login名を入力

パスワードを入力

ftp>binary

ftp>get /usr/local/pds/ファイル名 A:ファイル名.EXE

ftp>bye

1. 2. 2 XMODEMによる方法

% jstty -n

% sx /usr/local/pds/ファイル名

画面を切り換える

受信ファイル名にファイル名.EXEを指定する。

画面を切り換える

%

1. 2. 3 KERMITによる方法

% jstty -n

% kermit

C-Kermit> set file type binary

C-Kermit> send /usr/local/pds/ファイル名

画面を切り換える

Kermit-MS> Receive ファイル名.EXE

画面を切り換える

リターンキー

C-Kermit> q

%

2. 実行形式ファイルの作成

受信した ファイル名.EXE は複数のファイルを1つのファイルに圧縮したアーカイブファイルを自己凍結しています。このファイルを一度実行すれば自己解凍され、元の複数ファイルに復元されます。これで、実行形式ファイルができます。

A>ファイル名.EXE

(ネットワーク掛 内線2542)

5. 日本語TeXのプレビューア, 出力コマンドの公開について (UTS)

現在 UTS では \LaTeX を公開していますが, その出力コマンドとプレビューアとして以下のものを公開します.

1 出力コマンド

現在, UTS からはセンター 2 階の PostScript プリンタ (400dpi) へ \TeX の結果を出力できます.

dvi2ps (日本語対応版: 桜井貴文氏, 風間一洋氏による)

使用法:

```
dvi2ps [-f 開始ページ] [-t 終了ページ] DVI ファイル | lp -dps -ops
```

なお, 従来英数字の印字品質については御迷惑をおかけしてきましたが, 現在では, 400dpi に対応したきれいな出力が得られます. なお, 300dpi のプリンタ用には以下のようにします.

```
dvi2ps -R 300 DVI ファイル
```

2 プレビューア

現在 UTS で利用できるプレビューアは以下の通りです.

通常の端末で利用できるもの パソコンから入っている場合もこれに当たります.

テクトロ端末のエミュレータとして使えるもの **kermit** はテクトロ端末エミュレータとしても使えます. この場合は以下のものが使えます.

dvi2vdu (A. Trevorrow, M. Hadley, M. Hewitt, Kitagawa M. 氏による)

使用法:

```
dvi2vdu -v tek4010 DVI ファイル名
```

基本的なコマンドは次の通りです.

f フルモード. きれいなプレビューができます.

n 次ページへ

d ページのスクロール

? オンラインヘルプ

q 終了

詳細は `lman dvi2vdu`, またはオンラインヘルプで参照して下さい.

その他のもの その他の場合は以下のものを使って下さい. ただし, これらは日本語のサポートがありません.

dvi2tty (S. Lindahl 氏他による)

使用法:

```
dvi2tty DVI ファイル名
```

X-Window 上で利用できるもの 以下のものが利用できます.

xdvi (P. Vojta 氏他による)

使用法:

xdvi DVI ファイル名

ただし, 大きいフォントの一部が出力されません.

texx (D. Grunwald 氏による)

使用法:

texx DVI ファイル名

ただし, 一部フォントの位置がずれるというバグがあります.

基本的なコマンドは両者に共通して以下の通りです.

n 次ページへ

p 前ページへ

q 終了

各コマンドはいずれも `/usr/local/bin` にあります.

(ライブラリ室 内線 2508 E-mail: e70019a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp)